

○まちづくりの課題について

課題1 市民が主役の地域資源を活用したまちづくり

将来人口の減少。人口が減る中でも、持続可能な、暮らしやすいまちをつくる。市民と行政が協力して課題を解決する。地域で活躍する人材の育成。地域資源をフル活用した持続可能なまちづくりの実現。

【これまで行ってきた事業】

- ・市民活動支援センターの設立、活用
- ・市民提案型まちづくり事業
- ・廃校、既存施設の利活用
- ・K スポ・道の駅利活用、アクティブシティかくだ
- ・多様な主体(産官学金民)との連携強化

課題2 安全・安心なまちづくりと気候変動への対応

大規模化する自然災害への対応。新たな感染症など、様々なリスクから市民の生命と財産を守る。安全に暮らせるまちづくりを進める。自助・共助・公助を着実に進め、誰もが安心して生活できるまちづくりを進める。大規模自然災害の頻発など、気候変動を前提とした対策を講じる必要がある。

【これまで行ってきた事業】

- ・防災・減災構想の完遂
- ・感染症予防と対策
- ・ゼロカーボンシティの推進
- ・気候変動対策の推進

課題3 持続可能な地域医療体制の構築

近年の角田市や仙南地域における医療体制は、人口減少・少子高齢化等の影響により縮小傾向にある。安心して生涯を健康で過ごせるまちづくり、子育てしやすいまちづくりを推進するため、角田市内及び仙南圏域における持続可能な医療体制を構築する必要がある。

【これまで行ってきた事業】

- ・産科・小児科の誘致(補助金)
- ・みやぎ県南中核病院の産科復活
- ・地域包括ケアシステムの確立
- ・重層的支援体制の構築

課題4 子育てしやすいまちを目指して

人口減少や少子化の進行を鈍化させ、活気のあるまちづくりを進めるためには、「子育てしやすいまち」であることが重要。本市の未来を担う社会の宝である子どもたちを育むため、家庭・地域・学校・行政が連携して、子育てしやすいまちづくりを推進することが必要となる。

【これまで行ってきた事業】

- ・3つの無償化実施(医療費・保育料・給食費)
- ・子どもの遊び場の整備(どんぐりパーク)
- ・学力・教育環境の向上
- ・新中学校の建設(学校適正規模検討委員会)
- ・男女共同参画社会の定着
- ・働く場所の確保(企業誘致)

課題5 公共交通システムの存続と利便性向上

阿武隈急行線の存続は本市へのアクセスにとって重要なポイントである。本市での暮らしやすさを向上させるためには、既存の公共交通システムの利便性を高めることが必要となる。

【これまで行ってきた事業】

- ・阿武隈急行線の存続決定、利便性向上
- ・スクールバスの利活用
- ・デマンド型バス、周遊バスの検討
- ・角田市地域公共交通計画の策定

課題6 魅力的な産業の振興と地域経済の活性化

活力に満ちたまちづくりの実現には、働く場所の充実や、地域に根付いた魅力的な産業が発展し続けることが重要。本市の基幹産業のひとつである農業について、改めて今後のビジョンを明確にするとともに、地域資源を活用した地域経済活性化を推進することが必要。

【これまで行ってきた事業】

- ・企業誘致活動
- ・中心市街地活性化
- ・地域農業経営基盤強化促進計画(地域計画)策定
- ・農業振興、担い手確保
- ・道の駅・K スポの活用

課題7 市民生活の基盤となる安定した行財政運営の推進

本市の近年の財政状況を踏まえ、限られた経営資源を有効に活用し、将来にわたって持続可能な行財政経営を推進していく必要がある。

【これまで行ってきた事業】

- ・経常収支比率の改善
- ・税以外で稼ぐ市役所の推進
- ・事務の効率化
- ・税収増に向けた対策強化
- ・公共施設の適正管理